

三泰産業は広島と福山におく毒劇・危険物倉庫の物流機能を活かし、地場密着のサービス展開で存在を示す。福永芳顕社長は、「取引先のグローバル化にあわせ、海外取引も一歩ずつ進めていく」と、先々を見据えたビジネス創出に力が加わる。

三泰産業は旧三井物産広島支店の石炭部が起源。その後の変遷で第一通商・広島支店の燃料部となるが、1952年（昭和27年）、福永社長の祖父にあたる福永忠秋氏がエネルギーおよび化学品の専門商社として同社を創業。広島県下に根を張り、広島と福山に毒劇・危険物倉庫を備えた営業拠点を開設。地域密着のお役立ち専門商社として事業基盤を築き上げた。

事業内容は産業用燃料、溶剤、潤滑油、切削油、洗淨剤、水処理薬品・関連資材・メンテナンス、有機無機薬品、合成樹脂の取り扱いのほか地下タンクの定期点検、タンククリーニング、危険物・毒劇物保管、廃液・廃油処理、緊急対応商品、オイル吸着材、油処理剤など多岐にわたるサービスを展開する。ニッチな業務となるが、なかでも産業用燃料の小ロット配送、金属加工分野や水処理施設向けの関連商材などの特定領域では追従を許さない専門集団として広島地区では名高い。

「業歴が示すように東西の各倉庫を活かした事業で存在を表してきたが、取引先のグローバル化が進み、当社も連動してその領域に踏み出す必要が出てきた。すでに輸入品をいくつか手掛けているものの次世代に向けたビジネスの種蒔きを開始する」と、福永社長自ら海外に向き、ビジネス創出への探索に乗り出した。水や液体の濾過分野で良い感触を得ているようす。